



愛・地球博「山車」総揃え



鈴木正三

目次

- ・ 鈴木正三没後350周年記念特別展「鈴木正三ーその人と心」———— 2
- ・ トピックス 合併した旧町村の指定文化財 ———— 4
- ・ 始祖松平 御参府お帰り道中
東京から豊田市へ そして未来へ ———— 6
- ・ 平成16年度郷土資料館事業報告 ———— 7
- ・ 文化財シリーズ・資料館ニュース ———— 8

鈴木正三没後350年記念特別展

「鈴木正三 — その人と心 —」

平成17年 6月25日(土)～8月7日(日)

鈴木正三を知っていますか？

鈴木正三は、天正7(1579)年足助荘で徳川家康に仕える武士・鈴木重成の子として生まれました。戦国期から江戸時代へと向かう混乱期を武士として過ごした正三でしたが、人の死や仏教への感心が深く42歳の時、出家しました。僧侶となった正三は独自の修行を続け、既存のどの宗派からも自由な立場で活動しました。



正三坐像(彦根市 報慈寺蔵)

「万民徳用」ってどういう意味？

正三の思想は、「万民徳用」「世業即仏業」などの言葉で紹介されます。「万民」つまり、「士農工商」どんな職業の人であっても、その仕事を日々一生懸命つとめる事で、世の中の役に立ち、それがそのまま仏の修行であるとするものです。「世業」職業がそのまま「仏業」という訳です。正三はその著書『万民徳用』の中で、「武士日用」「農人日用」「職人日用」「商人日用」とそれぞれの職業において具体的にその方法を示しています。その「職人日用」の中で正三は「鍛冶、番匠をはじめ、諸職人なくしては、世界の用は足りず、武士なくして世は治まらず、農人なくして世界の食物はなく、商人なくして世界の自由はない」といい、それぞれの職業の役割を論じています。

「商人は、利益を増やす心づかいを修行すべし」

つづいて正三は「商人日用」において売買をする人は利益を増やすように励む事を勧めています。そして、それは一筋に正直の道を学ぶ事だと説き、私欲のために利得を思う人は天道のたたりがあるといいます。こうした考えは、近年、資本主義的な考え方につながる思想として、新たな評価をされつつあります。正三の職業倫理に関する思想は、現在、「働くことはよいこ

とだ」という勤勉思想の源流とも捉えられ、日本で最初に職業倫理を唱えた思想家という見方もされています。

「二王坐禅」を唱えた人

正三は「二王座禅」と呼ばれる坐禅を人々にすすめました。これは寺院の門前の二王像のように、眼をみひらき、歯を喰いしばって坐禅をするというものです。正三の教えでは、この坐禅は自らの煩惱と戦う行、心を強く持ち、気合を入れて煩惱や自らの内にある悪しき心を打ち払い修行をなささいということのようです。二王禅は、正三の仏弟子のみならず一般の門徒も行ったようで、江戸名所図会の浅草寺の部には「二王禅を行う平内兵衛」の絵が掲載されています。当時の平内像は焼失していますが、現在も浅草寺の二王門前に平内堂が建っています。

江戸時代のベストセラー作家

正三は、生涯に7冊の著書を残しています。『盲安杖』^{もうあんじょう}『万民徳用』^{にんにびく}『二人比丘尼』^{にんにびく}『念仏草紙』^{にんにびく}『麓草分』^{にんにびく}『因果物語』^{はきりしたん}『破吉利支丹』です。『盲安杖』は、正三が出家する以前に、朋輩の武士に対して「仏法は世法にそむくものではない」との考えを示すためにまとめたもの。「己を顧て、己を知る」「心をほろぼして心をそだつ」「小利をすてて、大利に至べき」など、現在の私たちの生き方にも指針を与えてくれる考えが示されています。

また『二人比丘尼』^{にんにびく}『念仏草紙』は、女性向けに書かれた仏教の教えを説いた本です。仮名書きで読みやすく、江戸時代を通じてよく読まれた本でした。そのため正三を紹介する辞書には仮名草紙作家として掲載されたものもあります。



鈴木正三著『二人比丘尼』(恩真寺蔵)

特別展に展示するおもな資料

今回の展示の中心は、正三の墨跡・遺品・坐像・著作類です。墨跡は、「南無大強精進勇猛佛」と書かれた軸、『麓草分』の一節を書いた軸、「七佛略戒」を書いた卷子と現在、所在が知れるものをすべて展示します。次に坐像は、市内に残る2体(恩真寺蔵・心月院蔵、いずれも市指定文化財)のほか、長泉寺(東京都八王子市)の像、報慈寺(滋賀県彦根市)の像、能仁寺(大分県大分市)の像の合計5体を展示します。作風の異なる坐像ですが、どこか似通った風貌をごらんいただけます。どの像も二王坐禅をする姿でしょうか、厳しい表情の像を前に正三の人物像に思いを馳せていただけます。また、正三が寄進した梵鐘、2口も見所の一つです。二井寺(現・普賢院)に寄進された寛永21(1664)年銘のものと、恩真寺に寄進された同年の銘のあるものです。二つの梵鐘はいずれも同じ人(大坂住宗左衛門尉)が作り、同じ人(尾張国熱田住小塚次兵衛)が銘を刻んだ、いわば兄弟の鐘です。二井寺の銘文には「土農工商、其の業に励む者」と正三の思想が込められていることで有名です。



正三墓塔(八王子市)

正三の弟子・恵中、雲歩の資料を初公開

このほか今回の展覧会では正三の思想を記録し、伝えることに努力した弟子、恵中と雲歩の資料を展示します。恵中は、正三の傍らで見聞きした事柄や教えを受けた師の言動を書き記し、『驢鞍橋』を出版、正三の伝記『石平道人行業記』『石平道人行業記弁疑』をのこしました。

中でも大正大学所蔵の『西禅集』15巻は、恵中の全集で展示公開されるのは初めてです。『西禅集』には、正三の教えを恵中自身の言葉で伝え、さらに深めている様子がわかります。



恵中像(八王子市 長泉寺蔵)

夏目漱石も正三に注目した！

また今回の展示ではこれまであまり知られていなかった明治期の文豪・哲学者が正三に興味を持っていた事を示す資料(一部写真)を展示します。それは夏目漱石・幸田露伴・西田幾多郎の3人です。幸田露伴は、正三について「二人比丘尼の作者」として評価し、謡曲「山姥」についての意見を論評するなどしています。また、西田幾多郎の日記の中に、「鈴木正三 反古集」という記述が見られます。夏目漱石は『禅門法語集』に掲載された正三の著作『驢鞍橋』『麓草分』部分に多くの書き込みをしています。漱石は正三の考えに批判的ではありますが、明治の文豪が正三をどうとらえたかを知ることができます。



夏目漱石旧蔵『禅門法語集』(東北大学図書館蔵)

正三が亡くなって350年、これまで鈴木正三の展覧会は開催された事がなく、初公開の資料も多くあります。この機会に一人でも多くの方に展示をご覧いただき、正三の人とその思想に触れていただければ幸いです。(展示資料は都合により変更されることがあります。)(伊藤 智子)

合併した旧町村の指定文化財

6町村の合併により各町村の指定文化財が豊田市の文化財となり大幅に増えることになりました。各種の文化財は下の表のようになっています。そこで、新たに豊田市の文化財に加わった指定文化財を「郷土資料館たより」52～55号で順次紹介していきます。

市内指定文化財数一覧表

種 別	国指定	県指定	市指定	合計
工 芸	3	3	22	28
絵 画	4	6	15	25
彫 刻	1	4	25	30
文 書	0	0	9	9
書 籍 ・ 典 籍	3	3	3	9
考 古 資 料	1	3	13	17
工 芸 技 術	0	0	2	2
有形民俗文化財	0	2	17	19
無形民俗文化財	1	8	11	20
史 跡	2	4	23	29
名 勝	0	0	1	1
天 然 記 念 物	2	10	97	109
建 造 物	1	2	5	8
旧 豊 田 市 合 計	(14)	(22)	(75)	(111)
新 豊 田 市 合 計	18	45	243	306
登 録 文 化 財	4			

【山内家住宅】



県指定有形民俗文化財

昭和50年12月26日指定

間口6間半、奥行き3間（約66.2m²）の1730年頃に建てられた木造萱葺の建物。この建物は旧藤岡町大字木瀬の旧山内保宅で、解体されて藤岡飯野町仲ノ下に移築復元されたものです。単純な架構に土間と板張りによる代表的な農家建物です。

藤岡地区の指定文化財

指定区分	種 別	名 称	所蔵又は管理者	指定年月日	時 期	所在地	備 考
市	史跡	御内平古墳	深見町	1979.3.7	6世紀	深見町 洞田1097番地1	約1500年前に造られた横穴式の古墳
市	天然記念物	西市野々のアカガシ	西市野々町	1974.2.10		西市野々町森下250 八剣神社境内	樹齢約400年 樹高約15m 目周り周4.3m 根周り13m
市	天然記念物	三箇のカヤ	個人	1974.2.10		三箇町内坪4 永井一成氏屋敷	樹齢約250年 樹高約18m 目周り周4.4m 根周り5.4m
市	天然記念物	三箇のアラカシ	個人	1974.2.10		三箇町内坪11 加藤峰雄氏屋敷	樹齢約250年 樹高約23m 目周り周4.8m 根周り7.0m
市	天然記念物	折平のコウヨウサン	向陽寺	1974.2.10		折平町上屋敷20 向陽寺境内	樹齢約150年 樹高約18m 目周り周3.3m 根周り5.3m
市	天然記念物	北一色のヒガンザクラ	金剛寺	1974.2.10		北一色町川原278 金剛寺境内	樹齢約200年 樹高約10m 目周り周3.3m 根周り5.3m
市	天然記念物	御作のスギ	御作町	1974.2.10		御作町小191 八柱神社境内	樹齢約200年 樹高約50m 目周り周3.8m 根周り5.7m
市	天然記念物	御作のケヤキ	御作町	1974.2.10		御作町小191 八柱神社境内	樹齢約420年 樹高約30m 目周り周5.1m 根周り約15m
市	天然記念物	御作のサザンカ	個人	1985.3		御作町正野平262 水野征氏屋敷	樹齢約260年 樹高約5m 目周り周1.9m 根周り約2.2m
市	天然記念物	下川口のいちよう	天神社	1985.3		下川口町御堂294 天神社境内	樹齢約300年 樹高約35m 目周り周4.3m 根周り約8.3m 枝張り約16m
県	有形民俗文化財	旧山内家住宅	豊田市	1975.12.26	18世紀前半	藤岡飯野町 仲ノ下1048番地1	西三河地方における庶民住宅形式の代表的民家。
県	無形民俗文化財	藤岡の棒の手	—	1976.7.14			見当流・鎌田流・藤牧検藤流の保存と伝承。

小原地区の指定文化財

指定区分	種別	名称	所蔵又は管理者	指定年月日	時期	所在地	備考
県	天然記念物	前洞の四季桜	個人	1984.11.28		前洞町善道和427-2	樹高5m、年に2度花をつける
市	工芸品	宝篋印塔	個人	1982.7.23	室町	前洞町善道和44	宇治石・全高64cm
市	工芸品	五輪塔	祝峰寺	1982.7.23	桃山	三ツ久保町山ノ寺228	宇治石・全高49.5cm
市	工芸品	宝篋印塔	祝峰寺	1982.7.23	室町	三ツ久保町山ノ寺228	宇治石、2基
市	工芸品	燈籠	薬師寺	1982.7.23	江戸(元禄16年)	川見町堂ノ洞227	香縄燈籠218cm(右) 内方燈籠215cm(左)
市	彫刻	木造薬師如来坐像	薬師寺	1982.7.23	奈良(天平3年)	川見町堂ノ洞227	寄木造漆塗・像高40.5cm
市	彫刻	仁王像	観音寺	1982.7.23	江戸(寛政7年)	千洗町道慈109	阿型・吽型とも像高204cm
市	建造物	薬師寺本堂	薬師寺	1993.3.10	江戸	川見町堂ノ洞227	間口3間・奥行2間 蝦虹梁(龍の彫刻)
市	建造物	薬師寺鐘樓門	薬師寺	1993.3.10	江戸	川見町堂ノ洞227	上重間口1間奥行2間 下重間口3間奥行3間
市	有形民俗	石造薬師如来坐像	永太郎町	1982.7.23	江戸(元禄16年)	永太郎町馬場814-1	石浮彫造、像高31cm
市	無形民俗	小原歌舞伎	小原歌舞伎保存会	1989.3.27	江戸中期		
市	天然記念物	北のヒイラギ	個人	1971.1.10		小原北町高羽根323	樹高11m
市	天然記念物	田代の二本スギ	八幡神社	1971.1.10		小原田代町ナギノト580	樹高32.30m、夫婦杉
市	天然記念物	沢田のシラカシ	八柱神社	1971.1.10		沢田町森下208	樹高23m
市	天然記念物	大洞のスギ	白山神社	1971.1.10		大洞町大洞422	樹高27m
市	天然記念物	賀茂原神社のスギ	賀茂原神社	1971.1.10		小原町森下476	樹高40m
市	天然記念物	大平のサカキ	白山神社	1971.1.10		大平町宮ノ前1	樹高25m
市	天然記念物	大平のヒノキ	白山神社	1971.1.10		大平町宮ノ前1	樹高28m
市	天然記念物	峰森神社のコウヤマキ	峰森神社	1971.1.10		苅萱町ノタノボ325	樹高22m
市	天然記念物	大洞のツガ	白山神社	1971.1.10		大洞町大洞422	樹高27m
市	天然記念物	宮代のハチヤガキ	個人	1971.1.10		宮代町向イ154	樹高14m
市	天然記念物	築平のカゴノキ	盤照神社	1971.1.10		築平町岩倉235	樹高10m
市	天然記念物	上仁木諏訪神社のアラカシ	諏訪神社	1971.1.10		上仁木町日面畑586	樹高18m
市	天然記念物	大草日通しのヒノキ	熊野神社	1971.1.10		小原町明生院912-4	樹高36m
市	天然記念物	バイケイソウ	小原北町	1971.1.10		小原北町	群生
市	天然記念物	田代のナナイロノキ	個人	1983.11.25		小原田代町セバインシ67	樹高24・17・16m(3種)
市	天然記念物	枝垂れザクラ	個人	1983.11.25		小原北町尾形144	樹高20m
市	天然記念物	ボダイジュ	教聖寺	1983.11.25		小原大倉町宮ノ根158	樹高12・13.5m(1株2本立)
市	天然記念物	イチョウノキ	教聖寺	1983.11.25		小原大倉町宮ノ根158	樹高28m
市	天然記念物	ベニエドヒガン	個人	1983.11.25		小原大倉町前ノ洞188-2	樹高26m、大石を抱く
市	天然記念物	親子スギ	盤照神社	1983.11.25		築平町岩倉236-1	樹高32m
市	天然記念物	カスミザクラ	豊田市	1983.11.25		市場町陳手889	樹高15m、石上で生育
市	天然記念物	宮代のイチイ	個人	2003.9.26		宮代町榎62	樹高2.5m
市	天然記念物	宮代のクスノキ	個人	2003.9.26		宮代町榎62	樹高18m
市	史跡	市場城址	豊田市	1992.3.2	室町(文亀2年)	市場町城・深見	山城、石垣・畝状空堀群
市	史跡	宮口古墳群	個人	2003.4.4	古墳	永太郎町宮口下仁木町蔵屋敷	横穴式円墳4基
市	史跡	堤第1号古墳	個人	2003.4.4	古墳	永太郎町堤	横穴式円墳
市	史跡	堤第2号古墳	個人	2003.4.4	古墳	永太郎町堤	円墳

【前洞の四季桜】

明治39年に植樹された樹高約5m、枝張東西8.5m、南北10.5mの老木です。秋の彼岸頃から開花しはじめ、冬季も花数は少なくなりますが咲き続け、春に再び花数を増します。愛知県内には四季咲きの桜は各所に分布していますが、樹齡がはっきりした老木であることが県内では他には例がありません。

(杉浦 裕幸)



始祖松平 御参府お帰り道中

え ど ふ る さ と あ し た 東京から豊田市へ そして未来へ

豊田市は車の街として全国に知られていますが、歴史文化においても自慢できるものがたくさんあります。その中のひとつ「松平家」は松平郷に居を構え、徳川家の本家として1万石以上の格式を与えられ、御参府(参勤交代)を許されていました。

天保10(1839)年松平太郎左衛門家17代信汎(のぶひろ)が、松平郷から江戸へ出向いた様子が「御参府中日記」に残っており、当時の苦労が偲ばれます。

大名と同じ扱いということは大変名誉なことではありますが、御参府を行う費用を用意することは、わずか442石の領主にとって大変な苦労であったようです。全国の松平家に寄付を募ったり、行列の人員を岡崎を過ぎてから削ったりしました。もちろん、毎年御参府を行うことのできる家柄なのですが、実際には隔年で行い、それでも資金難から病気を理由に取りやめることもありました。

江戸に着いて将軍にお目通りをする、あいさつ程度のことが無上の名誉だったからこそ、無理をしてまで御参府を続けたのです。

12年前、この「御参府中日記」をもとに現代に再現したものが御参府道中で、殿様、姫君に扮した一行が、

東京(江戸)までを歩きとおし、豊田市の歴史文化を全国に発信しました。

今回のお帰り道中は、その名のとおり江戸から松平郷までの帰路にあたり、市町村合併による新生豊田市の歴史文化を全国に再発信するとともに、市民のみならず殿様一行として参加することで、郷土の素晴らしさを再確認する機会となります。

徳川、松平両家の始祖松平親氏(ちかうじ)が「天下和順」の願文を記したように、平和な世の中の願いをこの道中で広められるよう応援をお願いします。

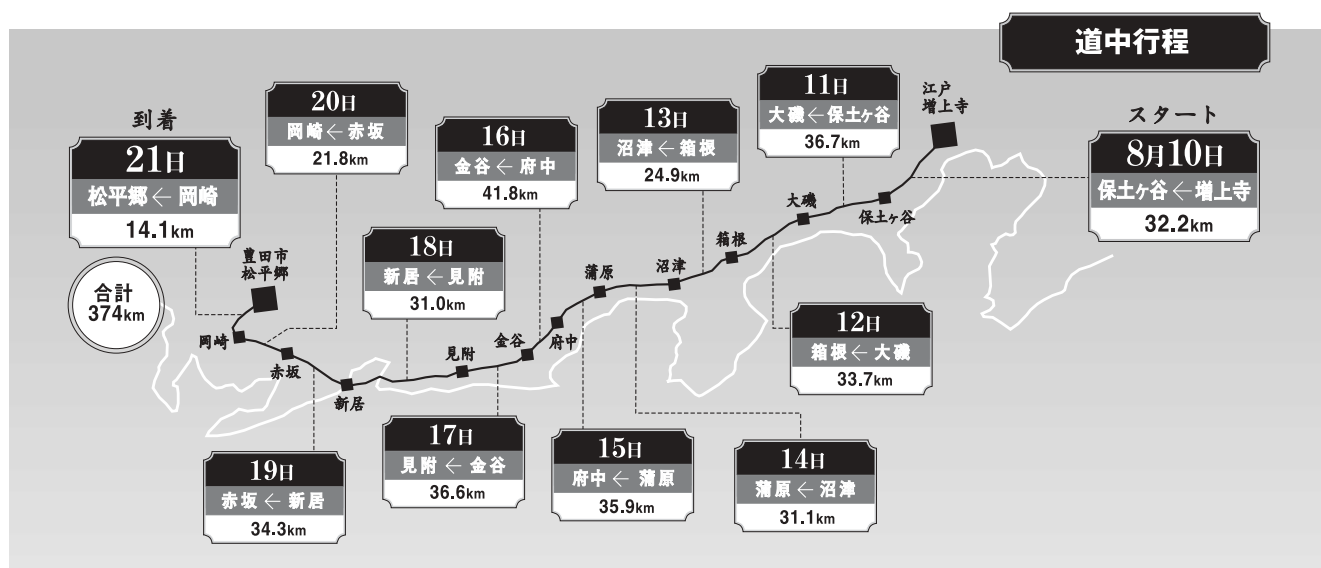
お帰り道中概要

日程：8月10日(水)から21日(日)までの12日間

行程：旧東海道の東京(芝増上寺)から豊田市(松平郷)までの374km

参加：殿様一行を含む総勢50名の隊列で延べ600名(8月21日のお迎え道中は、事前申込み不要で参加者募集中)

(久野 雄二)



平成16年度郷土資料館事業報告

1 文化財指定・認定

史跡指定 拳母藩内藤家墓所

伝統的郷土芸能保存団体認定 2 団体
(石野歌舞伎保存会、中根神楽保存会)

2 展 示

特別展「献馬大将」 11月3日～12月12日

企画展「館蔵・化粧の道具展」 7月17日～9月5日

企画展「明治用水と枝下用水」 1月29日～3月6日

棒の手会館企画展「猿投山麓の遺跡 Ⅲ」
5月22日～8月31日

棒の手会館企画展「ちゃらぼこ」
9月18日～12月19日

3 施設整備

(仮)産業・くらし資料館改修工事(内装・耐震・展示)

郷土資料館土蔵(2棟)・丸根城跡東屋耐震補強工事

4 補助事業

拳母祭山車(県指定)修理(西・喜多・中・東町)

平井町山車(市指定)修理

文化財保存施設整備(拳母祭山車中町収蔵庫修理)

民俗文化財保存維持(有形12・無形24団体)

郷土の先人顕彰会活動(5団体)

伝統的郷土芸能保存修理・維持

(修理3、維持14団体)

法興寺蔵木造阿弥陀如来立像保存修理

5 資料調査

史料叢書調査刊行(猿投神社文書)

昭和史資料調査

豊田市史検証・補完、同人物編調査

とよたの祭事記調査映像記録(中根町の神楽)

6 埋蔵文化財

堂外戸遺跡第1次発掘調査(16～19年)

出土品整理

(七曲・敷田・切山・明連古窯、伊保東古城・寺部城跡)

緊急発掘調査

(梅坪・高橋・郷上遺跡、平井大塚古墳測量・他)

調査報告書刊行

(『伊保東古城』、『兼近・吉兼1号窯』)

7 史跡整備等

鈴木正三遺跡整備第Ⅱ期工事

(駐車場用地購入・造成700m²)

大給城跡駐車場整備(80m²・5台分)

百々貯木場跡整備計画検討

史跡標柱設置(八柱社古墳)

8 資料購入

又日庵茶道録、又日庵・渡辺家印鑑、

風外筆仙人図、錦絵郡司大尉短艇航海双録、

西洋雑誌、村上忠順画像複製、高月院文書

(松平道閑寄進状)複製

9 その他

法興寺蔵木造阿弥陀如来立像胎内納入品保存修理

博物館館務実習(6月22日～30日、13名)

歴史体験講座(鎧試着、勾玉製作、古代食、火おこし等) 総合学習支援

鈴木正三没後350年記念事業開催準備

松平御参府お帰り道中開催準備

民俗資料館くん蒸(3月)

「親鸞上人絵伝」は日本への仏教の伝来から浄土真宗にとって仏教の歴史を体系化したもののひとつで、真宗の正統な後継者としての親鸞の思想と生涯を説いたものです。初稿本は本願寺三世覚如が永仁(1295)年に制作させたものと言われています。本来は絵巻として制作されたものが後に布教活動上、3幅の絵伝に改変されて数多く作られました。絵伝に描かれた親鸞の生涯の場面は制作年代や系譜により幾つかのバリエーションが見られます。如意寺(豊田市力石町)所蔵のこの絵伝は「第一幅下辺に霞で区切った一段を設けて右側に貴族の邸宅とその中の人々を、左側に遊ぶ子どもを描いていること」とこの2つの図の間に「上人御誕生」という墨書があるという特徴がみられ、

文化財シリーズ

52

初稿本・康永本など覚如が制作させた「絵伝」にはない独自のものと言われています。

また、「□荒木源海聖人門徒／三州高橋莊志多利郷如意寺常住御／……／文和三年申午十月廿一日」と書かれた別幅があり、これは古くは裏書であったとされ、このことと画像の特徴などから14世紀中頃の作品と考えられています。



資料館NEWS

こどもの日

昨年に引き続いて5月5日のこどもの日に「こどもの日によろいをきてみよう!」を開催し、約200名が参加しました。これは鎌倉時代と戦国時代の鎧(レプリカ)と姫の衣装の試着もできるというものです。試着の他にも市郷土資料館オリジナルよろい作りキットを使ってのよろい作りなども楽しむことができました。

愛・地球博 愛知県ウィーク

4/23～29の「山車」百輛総揃えには県指定有形民俗文化財の拳母祭の山車や足助八幡宮の山車などが参加しました。

4/24の「武者行列」には県指定無形民俗文化財の猿投の棒の手が参加し、愛・地球広場からグローバル・ループを歩きました。

4/25の「あいち伝統芸能名選」には三河万歳の西山万歳保存会が参加しました。

利用案内

開館時間 9:00～17:00

休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始

入場料 無料(ただし特別展開催中は有料となります)

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状鉄道「新豊田駅」より北へ 徒歩15分

駐車場 約20台(無料)

■豊田市郷土資料館だより No.52■

平成17年6月25日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎(0565)32-6561 FAX(0565)34-0095

E-mail: rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL: http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。